

OpenAIの次世代R&D戦略と企業の生存戦略

構造的資源傾斜と企業が取べきAI活用・システム設計の戦略的転換

OpenAIの構造的傾斜とモデル進化

GPT-7以降へ
集中投資
(80~90%)

80~90%

現行モデル
の微調整
(10~20%)

教師生徒蒸留による
100分の1のコスト削減

\$10.00 / \$50.00

教師モデル
(Astra)
最上位フロンティア
モデル
(知識の供給源)

\$2.00 / \$10.00

バランス型
(Sol)
コストと性能の
バランス型
(複雑なコーディン
グ・業務向け)

\$0.10 / \$0.50

生徒モデル
(Luna)
低価格モデル
(大量処理)

100分の1の
低価格化

自指的同僚
(GPT-6)

予見型エージェント
(未来)

意図を先回りする新パラダイム

企業に求められる3つのAI戦略転換

プロンプト
エンジニアリング
依存からの脱却

特定モデルへの過剰適合を
避け、システムから独立した
業務仕様を構造化



モデルの「即時切
り替え可能性」を担
保する疎結合設計

急速な価格破壊や性能向上
を即座に取り込める柔軟な
アーキテクチャを構築



競争優位の源泉は
「モデルのIQ」から
「業務再設計」へ

自律エージェントへ権限委
譲するための組織的な業務
刷新しと受容性を高める

